

# 秋厚労ニュース

NO1915号

2019年7月24日

秋田県厚生連労働組合

秋田市山王5-4-2

TEL 018(864)3341

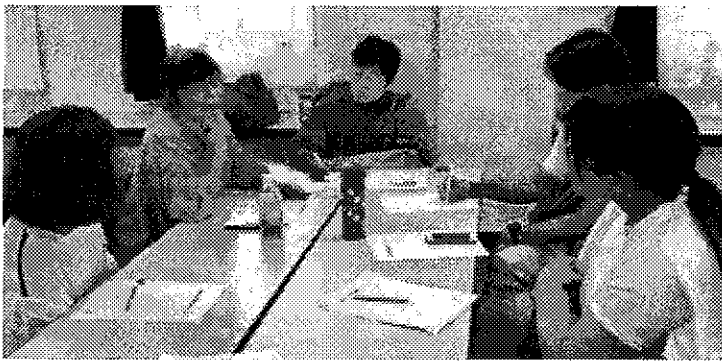
FAX 018(864)3349

# 認知症への接し方

第26回

## 看護ゼミナール

7月20日(土)、秋田市の教育会館にて第26回看護ゼミナールが開かれ、30人が参加。午前中はグループワークを行い、午後はかづの厚生病院精神科医師の大野正人先生が「認知症看護について学ぶー認知症ケア最前線ー」と題して講演をしました。



グループワークの様子

看護ゼミナールは①患者さんをまわること人間としてとらえる、②看護を科学的に実践する、③看護師自身が人として高まる、を目的に1993年から開催しています。

午前中は少人数のグループに分かれて、現場での認知症に関する実体験や、困ったことなど自由に話し合いました。グループで話し合ったことを全体で発表し、「患者家族に『入院したら認知症になった』と言われた」なるべく抑制帯を使

現場での実体験や困っていることを共有



大野正人先生

「物盗られ妄想」では家族や周りでお世話をしている人が患者さんの物を盗ったと疑われることがある。これは、患者さんが周囲に頼りたいことの現れであり、その場合、物を盗った、盗っていないで揉めるのではなく、じっくり話を聞く必要がある」と話します。認知症患者さんへの接し方については①その人を丸ごと受け入れること、

看護ゼミナールは①患者さんをまわること人間としてとらえる、②看護を科学的に実践する、③看護師自身が人として高まる、を目的に1993年から開催しています。

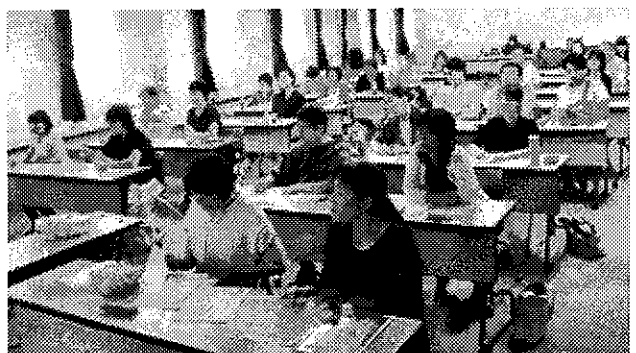
午後は大野正人先生の講演です。

先生は「認知症患者さんのどんな行動にも訳があり、患者さんが何をしたいか理解することが大切。

## どんな行動にも訳がある

②認知症の特性(例えば忘れやすいなど)をうまく利用すること、と説明しました。会場では先生の話を聞きながらメモを取る姿が多く見られました。

講演後は、質問が続出しました。大野先生はひとつひとつ丁寧に応えていました。「認知症患者さんとのレクリエーションで効果が低いものがあれば教えてください」という質問では「回想法(懐かしい時代を思い出して語ってもらうこと)で、脳を活性化させた



真剣に講演を聞く参加者

### ケアの見直しをする 良い機会となった

- \* 先生の人柄のよさがしみじみ出ていてとても聞きやすかった。認知症の理解、せん妄の人への対応、とても勉強になった
- \* 認知症の基本的な病態生理を知ることができた。BPSDを出来るだけ発症させないように普段からのかかわりが必要だと思っ
- \* 最初にグループワークをする、いつもと違う午後講演でよかった
- \* 認知症について各病院で困っていること、こんなことがあったなど、いろいろな話を共有でき、とても充実した時間となった

り、心の安定を図る方法)が効果的。昔のおもちゃ(お手玉、コマ、凧など)や昔の写真を用意するなどの手段がある」と答えました。

参加者は、認知症の人への接し方を再確認できたゼミナールとなりました。